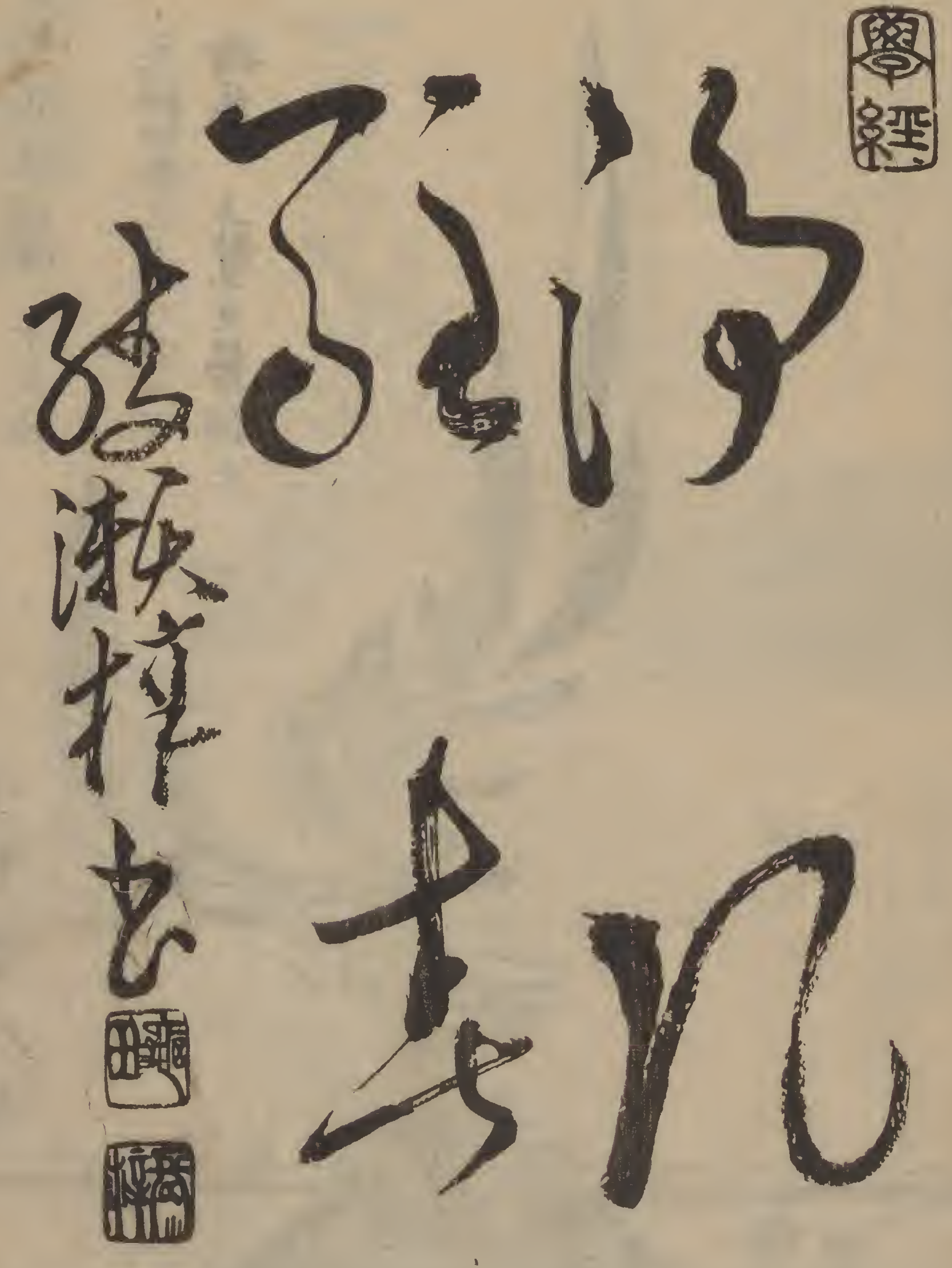
梓画手業松　人

400



島馬耳蘭 十三枚

天保四癸巳歳八月九日

挿花 上覧之節挿之

千松斎一樹

鑄工

栗原貞兼作

菊九輪

杜若五本

千松菴男

千種菴一英

馬蘭 十三枚

通塩町
森住一森女

水僊 七本

東両國
千流菴一橋

松竹梅

武州秋川落合住
千山菴一元

薄紅桃

防州岩國五橋里
千翠菴一以

白梅

防州岩國住
千翠菴一双

菊 十三輪

江州日埜鑄師住
千湖菴一花

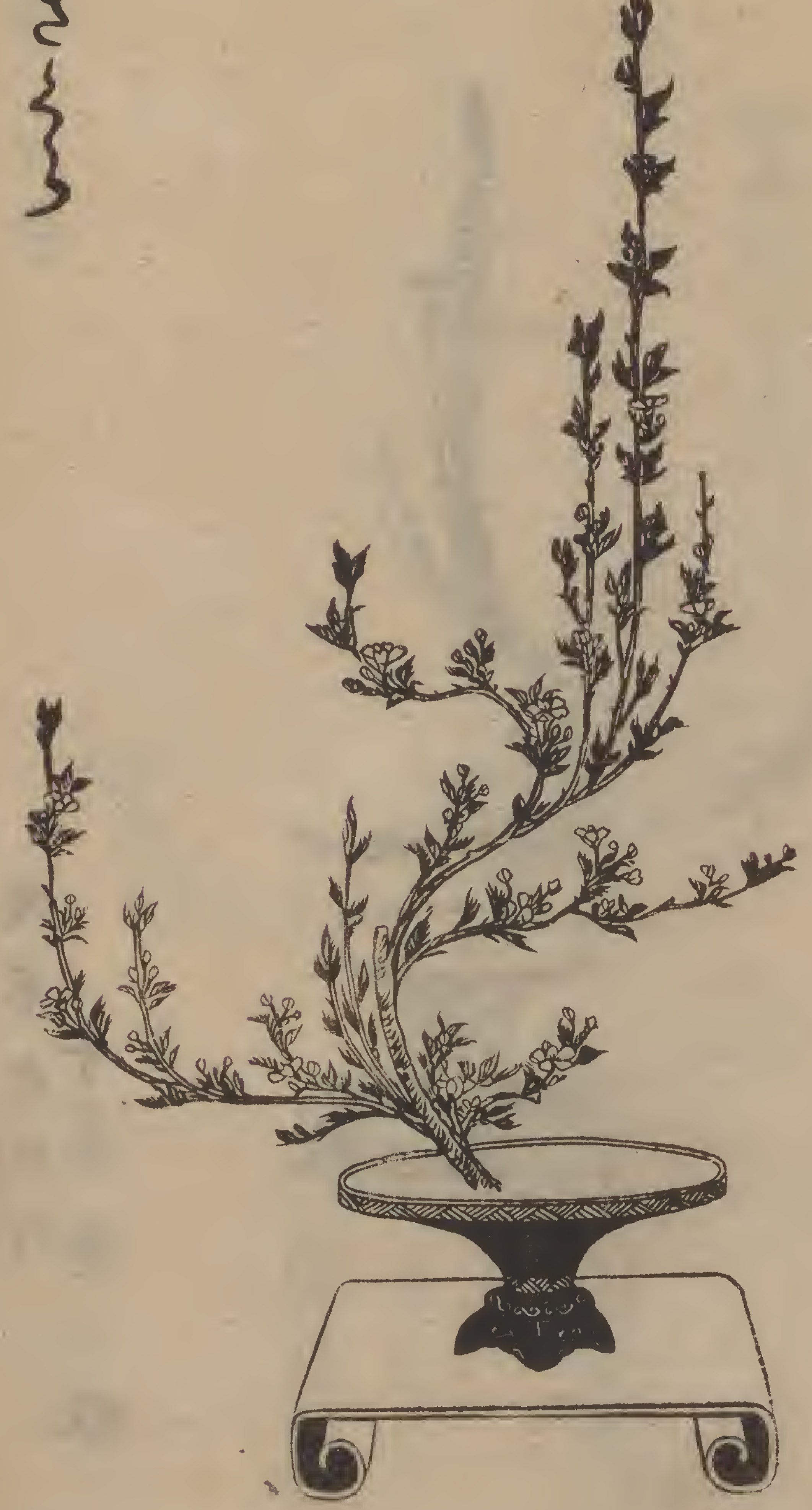
菊 五輪

日本橋
一養女

水僊

浅草東仲町
千羣菴一蛙

さくら



浅草東仲町
千羣庵一蛙

白梅

二世春柳庵門人
北総田川住
江栁庵一濤

菊 わたん

武州秋川落合住
千山菴一元

南天燭

秋實偏憐小畜歡譲紅 玉淵堂

豊前小倉
千庭菴一容

桔梗

野州足利
湊月菴一桂

馬蘭 十三枚

人形町
茅原一梅女

菊 玉[illegible]

横山町一丁目
木原一鶴女

松

本銀町
千好庵一長

かきつはた

西國柳橋
増婦知一橋女

黄菊 十一輪

野州足利
湊交菴一友

三角ゐ
蓮
川骨

越後長岡裏二之町
猪股一晴

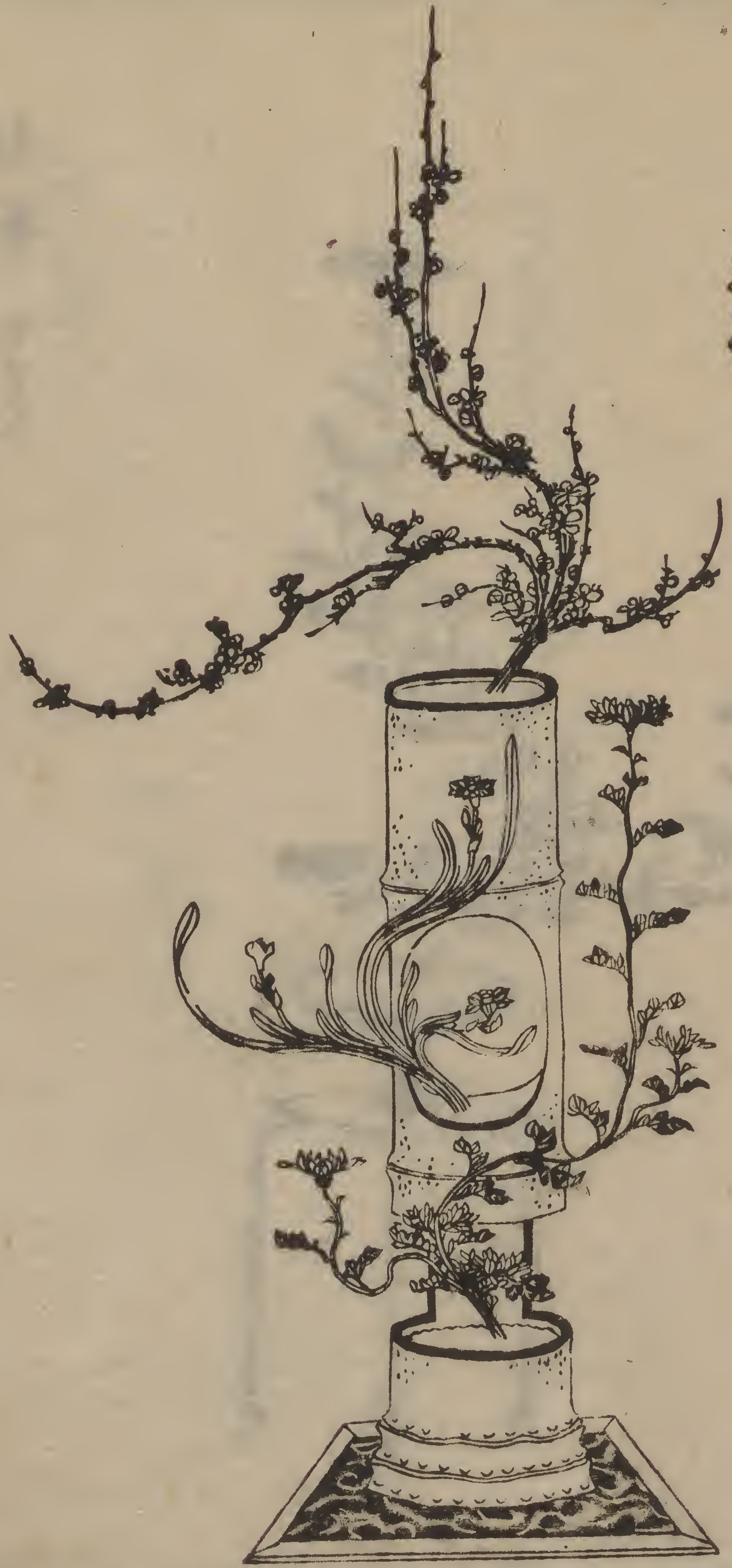
菊 [illegible]

大傳馬町二丁目
古市一勢女

梅

新堀
千歳菴一慶

白梅
水僊
きく



横山町一丁目
千株菴一哥女

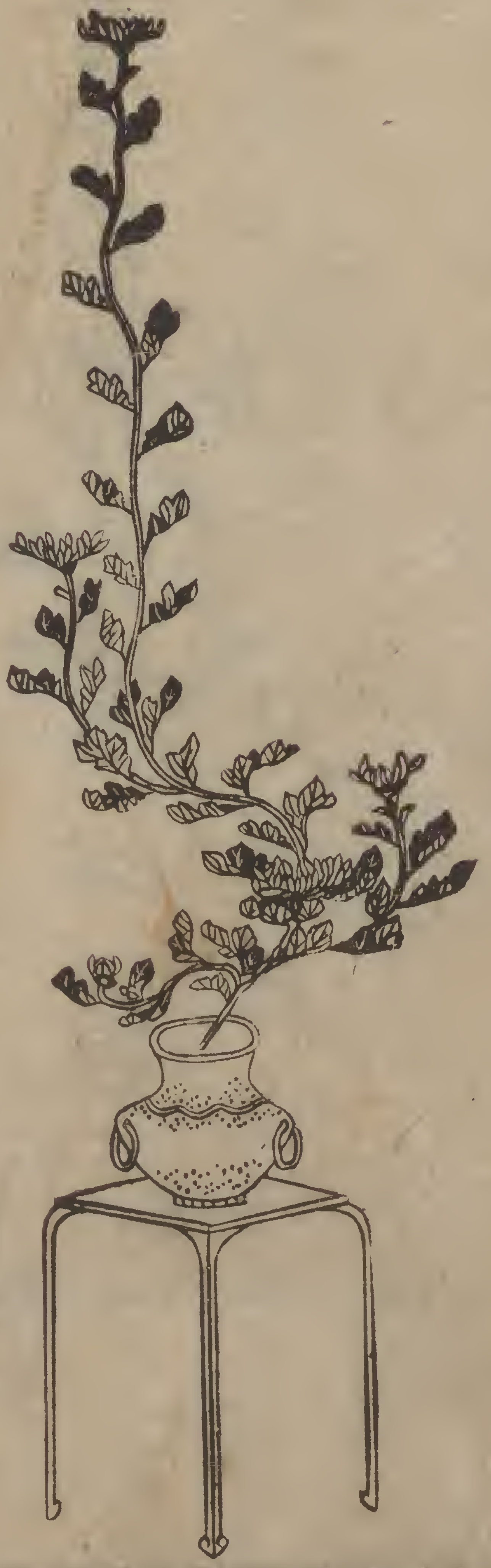
白菊 七ぶん

下谷三絃堀
八重盛一鶯

山茶

麻布一本松
千森菴一鷹

菊 五りん

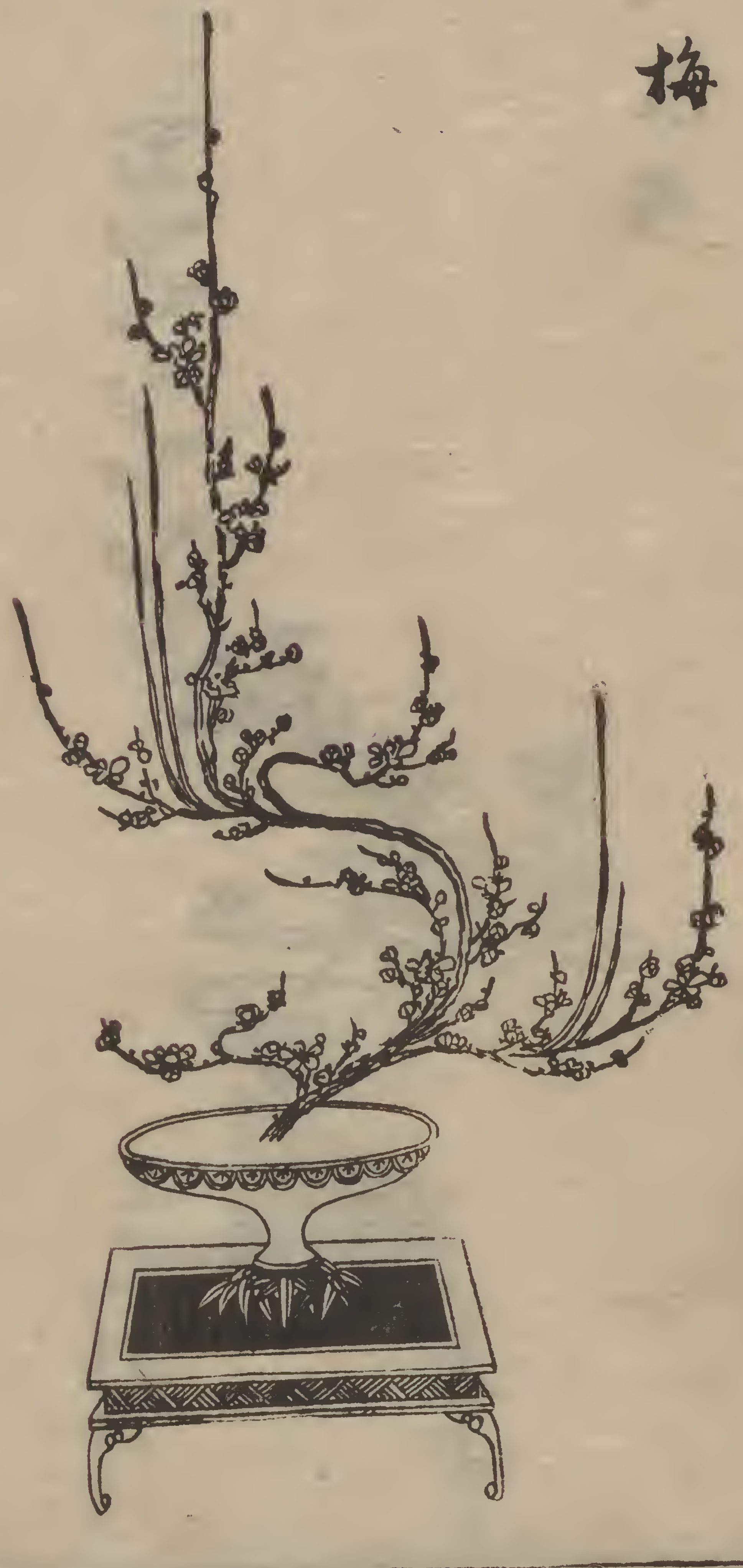


横山町二丁目
千花庵一養女

菊 五輪

神田龍閑町
小林一登

白梅



野州佐野山越

湊照菴一松

志たれ桜

萩きく

橋本町四丁目

渡邉樹養女

黃菊

越後高田安塚
金井一井

長春

樹朝女

梅もどき

本銀町二丁目
加藤一登

桃

横山町一丁目
木原一鶴女

さゝゆり

新材木町
美芳野一鈴女

五葉松
寒竹
白うめ

千慎菴一常女

栗原貞乗作

かきつばた

浅草東仲町
千羣菴一蛙

枝垂桜
しだれざくら

岩井一町
源

龜鶴年
壽齊

龍眠書

秋草七種
白萩 朝顔
桔梗 苅萱 菊 女郎花
瞿麥
櫻田
千芳菴一挂夫人

ゑよしぶ
遊子花
同上

朝鮮
きくのは

室町二丁目
千鶴菴
一頭

挿花千歳松跋

王仲遵花史左篇。沈賦名華譜。無詳其培養之道。而未及插花之雅説也。興于近世嗜挿花之徒多。而概未能免習俗也。惟為挿花者。為花瓶則。宜先遊心於山林郊

野者。亦寫其自然形狀於瓶中。
所以令無俗氣也。友人千松翁
先生。尤到此技。清水以灌之。戕
賊枝葉焉。且雖一花一葉。必具
其天真。不異接彼山林郊野矣。
蓋先生胸中。自有成竹云者乎。

折歷年之久。所謂得手應心者
乎。觀此圖。可以見其源流沛然
也。嘗遊奧之松島。積雨初晴。處
起遙矚望。小島無數。十則煙松輪
菌。老根露石上。亦遠望則如一
盆中插花。實與此圖相似也乎

雖未富挿花之術。而馳驅文墨之場多年矣。以是嘗彼。至不拘失其天真。則同矣。因贅數言以題云

天保歲次庚子南至後一日

龍眠青芊

千松葊一樹撰

千種葊一英撰

溪齋英泉圖

遠州流
挿花初學
千松葊一樹撰
一寶齋伊白圖
全三冊

遠州流
挿花千歲松
千松葊一樹撰
溪齋英泉圖
全三冊

同 養草 附錄

同 初自學草 秘傳入一人誓古

三冊
乙乙△

天保十二辛丑歳春發兌

書舗

京都堀川筋 中川藤五郎

大坂心齋橋筋博労町 河内屋茂兵衛

東都芝神明前 岡田屋嘉七

同日本橋通壹丁目 須原屋茂兵衛

同芝神明前 和泉屋市兵衛